

索引

〔索引中は本増刊号の
ページを使用した。〕

欧 文

A

Allen's test 59
arteriovenous fistula (AVF)
——感染予防 86
——作製と心血行動態変化 45
——作製のタイミング 82
——周術期看護 85
——周術期の合併症対策 86
——周術期の内服薬の調整 84
——術後の診察 89
——術前評価 83
——成熟の危険因子 77
——穿刺管理 134
——での感染の評価と治療方法
195
——の感染予防策 194
——の機能評価 223
——の形態評価 224
——の発達を規定する因子 22
——変法 71
小児の—— 324
肘窩部—— 70
標準的—— 68, 69
arteriovenous graft (AVG) 15,
28
——感染 136
——感染予防 108
——狭窄・閉塞 115
——屈曲 114
——血清腫 115
——作製時の工夫 106

——作製方法 99
——穿刺 107
——穿刺管理 135
——での感染の評価と治療方法
195
——の観察 204
——の感染性合併症 112
——の感染予防策 194
——の機能評価 226
——の形態評価 226
——の術後管理 106
——の穿刺 135
——の穿刺部感染対処法 196
——の特性 111
——のトラブル管理 111
——の非感染性合併症 114
——のループ方向 106
——瘤形成 115
——流出路（含吻合部）狭窄
108
小児の—— 324
長期使用——の合併症 109
AVG/AVF モニタリング 221

C

central venous catheter (CVC)
29
小児の—— 324
CT angiography 276

D

digital subtraction angiography
(DSA) 238, 275
drug-coated balloon (DCB) 257

E

expanded-polytetrafluoroethylene
(e-PTFE) 28, 32, 100, 135,
292

G

GORE VIABAHN 237
graft inclusion technique (GIT)
293

H

home hemodialysis (HHD) 219

I

IN-PACT AV DCB 238

N

non-compliant balloon 231

P

percutaneous transluminal
angioplasty (PTA) 15, 29,
31, 36, 40, 65, 72, 96, 108,
149, 157, 162, 195, 226, 229
——に対する US ガイド下・区
域麻酔 162
——のカテーテルの選択 229
——の基本 229
——の適応 241
——の利点 298
——の歴史 230
エコーガイド下—— 249
透視下—— 249

閉塞病変に対する — 251
pull through 法 245
簡易的 — 255
非血栓性閉塞に対する —
253
標準的 — 242

R

reverse wire 法 244

S

semi-compliant balloon 231
shunt trouble scoring (STS) シー
ト 132
super non-compliant balloon 231

U

ultrasonography (US)
— ガイド下・筋皮神経ブロッ
ク 162
— ガイド下・区域麻酔 158,
162

V

vascular access → バスキュラー
アクセス (VA) を見よ
vascular access intervention
therapy (VAIVT) 15, 74,
108, 247, 259, 265, 283

和 文

あ

アクセス
— 関連疼痛 309
— 穿刺 125
— 穿刺と消毒 125
アクセス血管感染症 143
— の防止 146

— のリスク因子 145
アクセストラブル 96, 119,
195, 220, 229, 230, 313
アクセスロス 99, 105, 108,
286
圧排 250, 252, 253, 254, 274,

い

インターベンション治療
→ vascular access intervention
therapy (VAIVT) も見よ 15,
74, 99, 102, 230, 237, 247,
261, 276, 297
一次閉塞のリスク 77

え

エコーガイド下 PTA 249
— の利点と欠点 250
エコー下穿刺 148
— 長軸法 150
— 長軸法の実際 151

か

ガイドワイヤーの誘導 243
カッティング型バルーン 232
カテーテル
— 感染の部位別対処方法
182
— 管理 173
— 関連感染症 181
— 関連血流感染症 185
— 脱血不良の原因 177
— 出口部の管理 174
— の観察 205
— の固定 176
— のサイズ・特性による分類
231
— の種類 165
— の選択 171
— の挿入手技 169

— の挿入部位 165
— の挿入方法 165
— の保護 176
— 抜去後の空気塞栓症 320
— 変形 178
— 留置時の事故防止策 320
— 留置に伴う事故 319
カフ型 — 166
カフ付きダブルルーメン
— 325
シース — 243
シングルルーメン — 167
ダブルルーメン型 — 167
長期留置 — 29, 142, 165
治療用 — の種類と分類 230
透析用 — による透析操作
184

非シャント — の日常管理
216
閉塞治療用 — 232
過剰血流 285
— シャント 286

痂皮の形成 142
加齢によって生じる問題点 37
簡易的 pull through 法 255
患者教育 201, 211
患者自身の止血 207
患者指導 202
患者の感染対策 207
患者の自己管理 202
患者理解 212
感染症 (致命的な) 328

き

器質化血栓 260
偽性瘤 136
緊急手術 267
筋皮神経ブロック 162
筋力低下 39

く

グラフト → arteriovenous graft
(AVG) も見よ 100

——の移植部位 101

——の種類 101

——の特性 101

——の特徴 100

——の吻合法 103

——抜去時の動脈再建法 198

——縫縮 290

区域麻酔 158, 162

ターニケット駆血下・手術の

—— 160

け

経皮経管的血管形成術

→ percutaneous transluminal
angioplasty (PTA) を見よ

外科的血栓除去術 259

血管拡張用バルーンカテーテル

233

血管造影検査 275

血管超音波検査 54

血管内治療 299

血管の加齢変化 38

血管評価 57

——法 58

血管縫縮術 289

血清腫 269

血栓 177

——/脱血不良時の対処 177

——/脱血不良の原因 175

血栓性閉塞 251

——に対する PTA 252

血流回復 259

血流感染症の取り扱い 186, 187

血流変化に伴う痛み 310

血流抑制手術 287, 289

こ

抗凝固薬 107

抗血小板薬 107

高心拍出量性心不全 47, 288

高度石灰化 262

高齢化と VA 作製選択 331

高齢者の VA 35

——作製時期 40

——作製選択 41

さ

再循環 92

——の原因 92

——の測定機器 93

——の測定方法 92

——を測定する意義 95

——を測定するタイミング 95

在宅血液透析 219

——における患者教育 216

——の課題 220

残存グラフト感染 197

し

シースカテーテル 243

シャント型 VA 41

シャント肢

——の洗浄・消毒 206

——の体操 209

シャント瘤 266

——例の手術 268

シングルルーメンカテーテル 167

自己アクセス管理 219

自己管理 202

術前血管エコー 61

小児 323

——の AVF 324

——の AVG 324

——の CVC 324

静脈高血圧 273, 274

——症 288

静脈-静脈グラフト 264

静脈壁の吸い込み 179

静脈弁の形態分類 60

心エコー所見 46

心機能 54

——低下 38

人工血管

——開存率 109

——置換・内挿 291

心負荷 30

す

スーパーノンコンプライアントバルーン 231

スコアリングバルーン 232

スチール症候群 279, 288

——に対する手術療法 283

——の危険因子 280

ステントグラフト 237, 254

ステント留置 253

せ

セミコンプライアントバルーン 231

成人カテーテル関連血流感染症 185

切迫破裂 267

穿刺

——管理 131

——困難の要因 149

——・止血での事故 316

——に伴う痛み 310

——の基本操作 134

——部位 133

穿刺針と血液回路の接続 127

穿刺痛の対策 138

そ

ソアサム症候群 275

早期閉塞予防 77

た

ターニケット駆血下・手術の区域
麻酔 160

ダブルルーメン型 167

対象喪失と喪の仕事 212

脱血不良 177

——時の対処 177

——の原因 175

短軸法 149

ち

致命的な感染症 328

中央静脈狭窄 274, 332

——症 297

肘窩部 AVF 70

中心静脈病変

——治療の基本手技 301

——に対するステント選択
302

——の原因 298

——の診断方法 299

——PTA の適応と禁忌 299

中心静脈閉塞症 297

超音波検査 54, 275

長期使用 AVG の合併症 109

長期留置カテーテル 29, 142,
165

——の構造 166

——の適応 168

——の特徴 166

長軸法 149

治療バルーン選択 246

治療頻度からみたバルーン選択
248

治療用カテーテルの種類と分類
230

て

低栄養状態と筋力低下 39

と

トランポリン現象 142

透視下 PTA 249

動静脈瘻 28

透析開始時期を規定する因子 20

透析効率の確保の確認 96

透析導入早期の死亡率 328

透析用カテーテルによる透析操作
184

疼痛 309

動脈表在化 118

——管理 118

——の作製方法 119

——の術後合併症 122

——の穿刺管理 137

——の適応 119

——の方法 118

特殊型バルーン 232

特殊な血管内治療 253

な

内シャント 45

——が関与する痛み 310

に

日常生活での注意事項 208

の

ノンコンプライアントバルーン
231

は

バスキュラーアクセス (VA)

——異常の早期発見指導パンフ
レット 215

——関連ガイドライン 15

——関連事故 315

——関連事故への COVID-19
感染対策の影響 321

——関連トラブル 32

——作製までの指導 212

——造影 242

——超音波検査によるサーベイ
ランス 222

——トラブルのスクリーニング
96

——トラブルの徴候 202

——日常管理の指導 214

——の開存率 32, 35

——の観察の基本 203

——の感染症 331

——の感染率 35

——の管理 32

——の危険度の比較 328

——の機能 31

——の血栓性閉塞 261

——の種類 26, 213

——の種類と予後 20

——の種類と割合 14

——の消毒 128

——の診療報酬 16

——の生命予後 32

——への穿刺 126

各種——と予後 328

非シャント型—— 42

バスキュラーアクセスインターベ
ンション治療 → vascular
access intervention therapy
(VAIVT) を見よ

パラシュート吻合 75, 76

バルーン

——選択 246

——特性による分類 230

カッティング型—— 232

スコアリング—— 232

スーパーノンコンプライアント

—— 231
スリッピング防止型—— 232
セミコンプライアント——
231
治療頻度からみた——選択
248
特殊型—— 232
標準型—— 231
薬剤コーテッド—— 238
バルーンカテーテル(血管拡張用)
233
バンディング 289
抜針事故 317

ひ
非血栓性閉塞 251
——に対する PTA 253
非シャント型 VA 42
非シャントカテーテルの日常管理

216
悲嘆のプロセス 212
皮膚の菲薄化 37
標準型バルーン 231
標準的 AVF 68, 69
標準的 PTA 242
病変の確認と評価 242

ふ
フィブリンシース形成 178
吻合径と血流量 281

へ
閉塞治療用カテーテル 232
閉塞病変に対する PTA 251

ほ
ボタンホール穿刺口の変形 143
ボタンホール穿刺法 140

——の問題点 141
——の利点 141
ボタンホールトンネル 141

ま
麻酔 157

も
喪の仕事 212

や
薬剤コーテッドバルーン 238

り
流入動脈結紮術 291

わ
腕神経叢ブロック 159